

玉藻公園散策再発見



去る5月1日(日)午後1時～、玉藻公園において、5月の寺ともサービス「玉藻公園散策再発見」を開催しました。いつもは基本的にお寺を会場にして催しをしていますが、お寺を飛び出してコロナを気にせず、連休を楽しめる企画を考えました。おかげ様で当日は、絶好の散策日和となりました。連休の序盤でもあり、小学生から年配の方まで20名程がご参加頂きました。中には、当日偶然観光で遠方から来られた方や、地元の方で散策に来られた方も合流して一緒に散策しました。

今回、玉藻公園をガイドして下さるのは、玉藻公園観光ボランティアガイド協会の会長植松信子さんと植田チズ子さんです。植田さんは、このかわら版紙面でもお馴染みの徳成寺の総代さんです。ガイドさんの法被(はっぴ)の背中には、上の写真のような三つ葉葵の紋どころが大きく染め抜かれています。

玉藻城は、日本三大水城の一つとされています。その中でも純粋な海水による水城は玉藻城だけです。海のことを玉藻の浦と言うので玉藻城と名付けられたそうです。さてその玉藻城の歴史を披雲閣を中心に観ました。



披雲閣は、高松松平家の12代目当主頼寿伯爵が大正6年に完成させた別邸です。建物は四国をイメージし、その前のお庭は瀬戸内海を、そしてつつじは瀬戸内の島々を象徴しているそうです。織田信長ゆかりの手水鉢は、信長と親戚だった生駒様とのご縁でここに鎮座しているのだとか。昭和天皇皇后もお泊りになったお部屋から眺める月見やぐらは、その後ろに瀬戸内海が見渡すことができ、波の音が聞こえるので「波の間」とも呼ばれているそうです。このような貴重なお部屋には、一般の人は普段は



入れません。ガイドさんが一緒に下さるので、ご案内して頂きました。最も興味深かったのは、玉藻城を通して生駒のお殿様や松平のお殿様の歴史に始まり、水戸黄門様で有名な水戸光圀公のお兄さん頼重(よりしげ)公がなぜ高松藩初代当主になったのかなど歴史探偵になった気分に興味津々でお聞きしました。知らないことばかりで、とっても楽しかったです。

